

# 国際政治

124

## 国際政治理論の再構築

日本国際政治学会編

序章 国際政治理論の再構築	田中明彦
コンストラクティヴィズムの存在論とその分析射程	石田淳
行為の論理と制度の理論	三浦聡
リアリズムの再構築は可能か	土山實男
トーマス・ホッブスと国際政治	岡垣知子
国家主権概念の変容	篠田英朗
人権・国家と二つの正統性システム	青井千由紀
国際規範の正統性と国連総会決議	宮岡勲
国際関係論におけるアイデンティティ	大庭三枝
「グローカリゼーション」と国家の変容	山田敦
アナーキー下における地域的協力の可能性	瀬島誠
<hr/>	
フランス二月革命とウェリントン公爵	君塚直隆
戦後日本の対マラヤ復交とイギリス	都丸潤子
<hr/>	
<書評>	
ピーター・カツェンスタイン、ロバート・コヘイン、スティーブン・クラズナー編 『世界政治研究における探求と論争』	飯田敬輔
ファン・J・リンス、アルフレッド・ステパン著 『民主制への移行と固定化の諸問題 南欧・南米 ・旧共産圏ヨーロッパ』	野上和裕
カール・ホルスティ著 『国家、戦争、そして戦争状態』	土佐弘之
クリストフ・フライ著 『ハンス・J・モーゲンソー』	宮下豊
義井博著 『ヒトラーの戦争指導の決断』	芝健介
西岡達裕著 『アメリカ外交と核軍備競争の起源』	高原孝生

2000年5月刊